

☆障害ある子ども医療ケア必要な子ども学校で受け入れ 文科省調査で2割増

朝日新聞デジタル 2022年7月11日

<https://digital.asahi.com/articles/ASQ7C6GWNQ7CUTIL02D.html>

＞ 発達障害などで通常学級に在籍しながら別の教室で「通級指導」を受ける児童生徒が2020年度に約16万4700人となり、前年度から2割増えたことが11日、文部科学省の調査でわかった。人工呼吸器などを使いながら幼稚園、小・中・高校に在籍する「医療的ケア児」は21年度1783人で前回（19年度）から2割増えた。

文科省は、障害のある子を受け入れる環境が整い、障害のない子と共に学ぶインクルーシブ教育が広がっていることが背景にあるとみている。

通級指導は20年度を通じて、医療的ケア児は21年5月1日の状況を調べた。

通級指導を受ける児童生徒について、文科省は19年度まで5月1日時点の状況を調べており単純比較できないが、20年度は最多を更新。学習障害（LD）、注意欠陥・多動性障害（ADHD）、自閉症の子で約6割を占める。国は、17年度からの10年間で小中学校の児童生徒13人に対し通級指導の教員1人を配置する計画を進め、対応できる学校が増えつつあるという。

一方、高校では、通級指導が必要な生徒が2396人いたが、半数近くは本人が希望しなかったり教員が足りなかったりして、指導を受けられていない。

幼稚園、小・中・高校に在籍する医療的ケア児も集計方法が変わったものの、21年度は最多に。また、学校でケアを担うために配置される看護師らは2023人で、19年度から約6割増えた。文科省は19年に医療的ケア児が通常学校で授業を受けられるように看護師の配置を求める通知を出しており、態勢の整備が進んでいるという。（桑原紀彦）

…などと伝えています。

△令和2～3年度 特別支援教育に関する調査の結果について

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 令和4年7月

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/1402845_00005.htm

*令和3年度 学校における医療的ケアに関する実態調査(別紙2)

https://www.mext.go.jp/content/20220711-mxt_tokubetu01-000023938_3.pdf